



(第 16 図)

(18) 高山町並 並 寺院絵図 (第 16 図)

年代 幕府直轄地時代前期 (天明 4 年以前)

寸法 59.2×81.9

所蔵 高山陣屋管理事務所

江戸時代の高山全体を鳥瞰式に描いた図で、当時の町並を立体的に知ることができる珍しい絵図である。この町並は天明 4 年 (1784) 3 月 20 日の大火以前の様子を描いている。左下に、「天明四辰年高山焼失以前町並並寺院絵図今重」と記される。

天明 4 年の火災は、高山の大火史上最大のものであった。焼失地は三町・片原町・寺内町・鉄砲町で、戸数 2,342 軒、寺院 10 ヶ寺で、宮川の川東の大部分にあたり、幕府は被災者へ金 1,807 両を貸与している。

城山北麓の三の丸堀は、文化 5 年 (1808) 田口郡代の元締貝塚素牛の内命により、清掃が企画され、町人の入札により金拾 2 両 2 分 2 朱で落札し、5 月 20 日より開始された。堀幅は約 6 間で、長さは 70 間程であった。以前は約半分程が埋め立てられて畑となっていたが、泥土を浚^{さらえ}、周囲に土手を築き上げて元の規模に戻された。堀には河骨^{こうほね}が植えられたが、文化 14 年に杜若、後には蓮が植えられた。また同年、城跡には桜が植えられ、茶屋等が建ち、次第に町人の憩の場となっていった。

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。